

平成 30 年 9 月 6 日

## 若手研究者海外挑戦プログラム報告書

独立行政法人 日本学術振興会 理事長 殿

受付番号 201880049

氏名 福永 玄弥

(氏名は必ず自署すること)

若手研究者海外挑戦プログラムによる派遣を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。  
なお、下記記載の内容については相違ありません。

### 記

1. 派遣先：都市名 桃園市 (国名 台湾)
2. 研究課題名 (和文) : グローバルシティにおけるクィア・ポリティクスの展開:台北・東京・ソウルの比較から
3. 派遣期間：平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 8 月 20 日 (142 日間)
4. 受入機関名・部局名：国立中央大学・性／別研究室
5. 派遣先で従事した研究内容と研究状況 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

まず、派遣先の国立中央大学では、報告者の専門領域であるフェミニズムとクィア理論に関する授業 (大学院生向け) 2 コマを、さらに国立交通大学で開講された政治学の授業 (大学院生向け) を 1 コマ聴講した。毎週の文献購読では専門知識を習得し、学期末には報告者自身の研究発表をして教員や院生からのフィードバックを得た。また、計 3 コマの授業の内 2 コマは英語で開講、1 コマは中国語で開講されたため、第二外国語をブラッシュアップする機会にもなった。

次に、派遣期間中、台北市政府を訪問し、「LGBT フレンドリー」な施策の導入背景や現状の課題について聞き取り調査を行った。また、台北市政府と協力的／に対して批判的な民間の LGBT 団体も複数訪問してインタビューを行い、貴重な話を聞くことができた。

さらに、派遣期間中、性 (ジェンダー・セクシュアリティ) の政治に関する社会運動 (たとえば「慰安婦」支援運動) や日本統治時代の遺跡 (桃園市や台中市、台東市、屏東市などに残る神社や「日本人移民村」など) をフィールド調査し、関係者に対する聞き取り調査を行った。

6. 研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

研究成果発表の見通しとして、第一に、日本と台湾の LGBT 運動の間に近年見られる「連帯」関係を東アジアの地政学に位置づけて批判的に考察した論文(日本語)を執筆し、2018年8月末に学術ジャーナルに投稿した。掲載の可否は報告書執筆時点では不明だが、これが本プログラムを通じて台湾滞在中に得られたもっとも重要な研究成果に当たる。また、この研究内容について、2018年7月に台湾で開催された学会(2018 The International Institute for Cultural Studies 夏季学会)で発表し、多くのフィードバックを得た。なお、同研究内容については2018年12月に香港で開催される国際学会でも報告を行う予定である。

第二に、日本における#MeToo 運動の流行を「時間性」の観点から考察した論考(中国語)を執筆し、台湾の学術雑誌に投稿した。掲載の可否は現時点では不明である。

次年度以降は調査対象を韓国にまで広げ、東アジア(日本・台湾・韓国)における「LGBT」言説の主流化をグローバル秩序や東アジアの地政学に位置づけて比較・検討する予定である。

7. 本プログラムに採用されたことで得られたこと (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

本プログラムに採用されたことで得られたこととして、まず人的なネットワークを挙げたい。国立中央大学や交通大学の教員や院生はもちろん、学会やフィールド調査を通じて知り合った台湾や海外の友人との出会いは報告者の研究の発展に寄与するのみならず、今後の人生にとっても得がたい機会になった。実際、派遣期間中に台湾で開催された学会で知り合った友人とは、別の国際学会でパネル発表を行うなど、今後国際的な共同研究を行う際の貴重な研究仲間としても関係を深めることができた。

また、中国語や英語で研究成果を発表する際の自信やスキルを得ることもできた。上述のように中央大学や交通大学で聴講した授業は英語と中国語で開講され、さらに国際学会では英語で口頭発表を行い、学術雑誌への投稿は中国語を用いるなど、第二外国語で研究発表を行うための自信やスキルを身につけることができた。これらの経験は日本の生活では得がたいものである。